



カトリック長崎大司教区
広報委員会
〒852-8113
長崎市上野町 10-34
カトリックセンター内
Tel. 095-843-3869
Fax 095-843-3417
振替口座 01880-5-2699
発行人
山田 良 秋
印刷所
株式会社 藤木博英社

年頭教書

信仰の遺産を福音化に 生かしてください

～フランシスコ教皇様の親書から～

大司教 ヨセフ 高見 三明



分自身の信仰を捨てないために密かに守りながら生き抜きたいわゆる「潜伏キリシタン」については何をかいわんやです。わたしたちはついにこの間彼らの再発見150周年を祝いました」

再び殉教者について「国籍、言語、社会階層、年齢の異なる殉教者や信仰の証人たちの長蛇の群れは、皆同様に神の子キリストへの深い愛を抱いており、『キリストを得るために』(フィリピ3・8) 自らの身分や生活の種々の事柄、つまりすべてを捨てたのです」と述べられ、この結ばれます。「兄弟の皆さん、これほどの霊的遺産を思い起こしながらわたしは皆さんにお話ししなければならぬことがあります。皆さんはその遺産を受け継ぎ、特に最も弱い人々の世話をし、さまざまなところから来る信者を共同体の中に迎えるよう努力することによって細やかな配慮をしながら福音化の任務を果たしてこられました。そのことと、文

長崎教区のすべての皆様に、新年のごあいさつを申し上げます。旧年中は公私共々さまざまな形で大変お世話になりました。心より感謝を申し上げます。本年も神の国と教会のため皆様と共に尽くしてまいりたいと思います。ご協力とご支援をよろしくお願いいたします。ところで、昨年9月17日、26日、日本各地を司牧訪問された福音宣教省長官フェルナン・フィロニ板機卿様は、日本の司教たちに宛てた教皇様の親書をたずさえて来られ、17日夜、駐日教皇庁大使館の聖堂で司教団代表の司教たちを前に朗読され、その内容を各教区の司祭、修道者、信徒に伝えるようにと要請されました。それで、今年の年頭教書では、その親書の内容を紹介することにします。

一、日本の教会の信仰の遺産

教皇様は、打ち明け話から始められます。「わたしは、日本の教会を考える度に、信仰のために自分のいのちをささげた数多くの殉教者たちの証しに思いを馳せます。ずっと以前から、彼らはわたしの心の中で特別な場所を占めています」それは、パウロ三木と同志殉教者数えきれないほどの信仰の証人、ユスト高山右近のことです、と言われます。また潜伏キリシタンにも言及し、こう言われます。「1600年から1800年代半ばまで自

平和を実現する人は幸い

宗教改革 500 年共同記念式典



昨年11月23日、浦上教会でシンポジウムと礼拝が行われた。(3面に記事掲載)

化の推進、諸宗教対話そして環境保全に取り組んでおられることに対して皆さんに感謝したいと思います」

二、日本の教会に 与えられた福音化の使命

次に教皇様は日本の教会の宣教の使命について話されます。「もし教会がカトリック、すなわち普遍的であるなら、それは教会が、外に向かって、生まれ、つまり宣教するものとして生まれたということを意味します。実際、『キリストの愛』は福音のためにいのちをささげるよう『わたしを駆り立てて』(二コリント5・14) います。このダイナミックな動きは、わたしたちが宣教熱を失うなら死んでしまいがす。それゆえ『いのちは与えることで強められ、孤立と安逸によって衰えます。事実、いのちをもっとも生かす人は、岸の安全を離れ、他者にいのちを伝えるという使命に情熱を注ぐ人です』(使徒的勧告「福音の喜び」10項)

そして山上の説教の中の「あなたがたは地の塩、世の光である」(マタイ5・13・14) というイエスのことばに目を向けさせます。塩と光は奉仕という役割を果たします。教会は塩としては腐敗から守り味付けをするという任務を持っています。光としては、現実と存在目的についての明確な見方を保証しながら闇の支配を阻止するのです。(…) つまり、塩はほんとうの味付けをし、光は闇に打ち勝たなければならぬということす」

日本の教会も塩と光の役割を果たしてほしいと願いながらも、教皇様は日本の教会の現状はわずかなパン種あるいは小さなからし種のようなものであり、聖職者と修道者が十分でなく信仰を実践する信者も限られているため種々の困難があることを承知しつつ、こう言われます。「イエスはこのような日本の教会に大きな霊的および倫理的な使命を委ねたのです。(…) 働き手の不足が、福音化への取り組みを縮小することはあり得ません、むしろ働き手を探すよう鼓舞する機会となります。自分のぶどう園のため終日新たな労働者を探し出かける主人(マタイ20・1

セバスチアノ 川添猛神父

帰天



司教総代理) の各教会で主任、97年福岡教区・天草へ派遣(大江・崎津・本渡)、2004年熊本・帯山を最後に、14年引退し大司教館へ。

11月19日浦上教会信徒会館で通夜。葬儀・告別式は20日午前11時に同教会聖堂で高見三明大司教の司式のもと行われた。通夜の説教では、櫻井尚明師(手取教会)が福岡教区での奉仕に感謝の意を表した。葬儀ミサで古巣馨師はその風貌と生きざまは預言者だったと指摘した上で、「この人はいつも死を隣に据えていたから、どうでもいいこと、命を張って守らないといけないことの区別はつきやすかったのでは」

・7参照) に似ています」

三、召命の促進

教皇様は、福音化のために召命を育てることの重要性を説かれます。「以上のことに関連して、わたしの目の前に突きつける挑戦が、わたしを諦めさせたり、まして事なかれの停滞させる対話へ戻したりすることはあり得ません。わたしが考えているのは、たとえば、高い離婚率、若者の間にもある自死、社会生活から完全に離れて生活することを選ぶ人たち(ひきこもり)、宗教的・霊的形式主義、倫理的相対主義、宗教的無関心、仕事と利潤への執着です。経済的發展の中をひた走る社会は、皆さんの間でも貧困者、疎外者のけ者を生み出します。わたしは物質的だけでなく、霊的、倫理的に貧しい人たちのことを考えています」そして結論を述べられます。「このような特有の状況の中で、日本の教会はイエスの使命を絶えず新たに選び取り、塩および光となることは焦眉の急です。殉教者と信仰の証人たちの教会であつたことに由来する皆さんの教会の真の福音化の力は、守り発展させるべき貴重な財産です」

訂正

本紙2017年12月号1面「司教座聖堂は教会共同体のシンボル」の記事中、「教区では、今年(2017年を指す) から11月1日を長崎教区司教座聖堂献堂記念日として制定している」とあるのは誤りです。浦上教会は1959年に献堂、62年1月1日付をもって司教座聖堂に指定されました。その時点以降、11月1日が司教座聖堂献堂記念日になります。お詫びし、訂正いたします。

(広報委員会)

会葬御礼

カトリック長崎大司教区司祭・セバスチアノ川添猛神父の逝去につきましては早速、ご丁寧なる弔問・弔電ならびにご香典を賜り、葬儀の際にはご会葬・献花の弔意に接しましたうえ、各教会・修道院で故人のために祈りいただき、誠にありがとうございました。御礼申し上げます。

一々拝眉のうえ御礼申し上げます。紙上をもって代えさせていただきます。

二〇一七年十一月

カトリック長崎大司教区
大司教 高見 三明

ださいますように」

★ほしかげ★

今年3月、江上教会は献堂100周年を迎える。修復は終えたが、内壁の落書きは一部そのままにされた。おそらく説教に欠伸しながら、お賽銭でいたずらした子どもらの仕業だろう。島を離れる若者が別れを惜しんだ涙文字だったかもしれない。壁に寄り掛かって祈った胸中を想像する▼創建当初に戻すよう、塗り直しの指導を受けたが、教会の担い手に成長した者たちは断固断った。建物にしか興味がない者には意味がなくとも、共に祈り育った者には、今も仲間の気配を感じる宝なのだから▼【古文書の如き落書き島の春】岳石

川添猛神父は「まだ骨のある信者がいたか」と感動し、句を詠まれた。直筆の遺作を遺言として壁の前に飾つてある▼聖別された「祈りの家」では、日常では見せない悲しみや苦しみもそっと打ち明けることができる。揺れる心を定め、力強く導く大切な声を耳にできる静寂と癒やしがあるからだ▼昨年サンマの漁獲が激減し、なかなか庶民の食卓には上らなかった。「和食」が世界文化遺産となり脚光を浴びたことが一因だと言われている▼「福音宣教」と言い聞かせるも、過疎化を防ぐ島興しに利用され、「パワースポット」や「インスタ映え」を目的にはしゃがれるとつい腹が立つ。静寂と癒やしが庶民から奪われないように力むと嫌われる。現場の祈りには新年も一段と葛藤が深まる予感がしている。(辻)

Synod 2018 Youth, faith and vocational discernment

『若者』をテーマにしたシノドスに向けて

教会はいつも新しくなる①

若者たちの信仰を、

家族思いの中で育てる

教区平和推進委員会委員長 岩村知彦

教皇様の思い

フランシスコ教皇様は、その回勅『ラウダート・シ』の副題に「ともに暮らす家を大切に」と掲げ、「地球は、皆で大切に、まもらなければならぬ」とおっしゃっています。また最近では、「家族」という言葉を好んでお使いになり、「家族の中でも、特に貧しい人々が大切にされなければならぬ」と語られています。また「家族」という言葉、考え方は、さまざまなことを考えるキーワードになつていくのではないのでしょうか。若者たちの信仰養成も、家族という言葉の中で考えていくならば、まだできることがあるように思います。また新しい試みへも挑戦できるように思いますし、賛同も得られるのではないのでしょうか。

特別な配慮

若者たちの信仰離れが言われるようになって久しく、仕方がないとあきらめる信徒たちの気持ちも広がっているように思えてなりません。しかし、どんな状況になろうとも、教会は宣教のためにキリストによって建てられたのですから、あきらめることは絶対にできないのです。そのため、一つの光として、島本要大司教様がはじめられた青年たちに対する取り組みを、思い起こしてみたいと思います。

現在の活動

島本大司教様は生前、堅信に回られるときにいただく謝礼を貯金され、三年に一度青年たち十数人を聖地巡礼に連れていく計画を立てられて、二度実行されました。なぜ、青年たちだけのように優遇されるのだという批判がありました。私自身、二度目の巡礼の実施をお手伝いするとき、たびたび同じ批判を受けまし

井隆博士の肉声を聞くことができました。広島には、大型バス一台を貸し切つて出かけています。もう少し参加者がいればよいのにと、思いますが、宿泊が幼稚園ということもあって、あまり増やすことができません。広島信徒たちの活動的な姿に触れることは、参加者に良い刺激を与えているのではないのでしょうか。また、参加する平和行進は、彼らに良い経験となるように思います。警察官の方々に見守られながらですが、町の通りを人々に見つめられながら、歌を歌いながら平和行進することは、ほとんどないことで、自分の知らないところ、こんなにもたくさん仲間がいることを確認できます。広島島の巡礼地も訪問しています。そこでは、生月の西玄司の次男の神父様が訪ねてきたことが分かつて、その弟の家族が殉教しました。

委員会の望み

中学生・高校生のための平和学習は、それで終わるのではなく、次の段階へとつなげられればと考えています。それは高見大司教様も推奨され、青少年委員会が担当されるワールドユースデーに送ることです。沖縄に行つた高校生たちには、その道があることを紹介します。参加者の考え方も大人になりますし、世界中から集まる青年たちとの交流は、彼らの考え方に大きな影響を与え、信仰に、何よりも参加者たちは、これらの教会の中心的役割を十分に担いうる人材に育つのです。

資金的裏付け

これらの提案を実行に移すためには、今でも資金がかかっていますが、より充実させようとすれば、もっと必要になります。ある一人の司祭の提案で、「永井隆基金」が青少年教育のために設立されました。一年に一度、各教会から献金を拠出して、もう資金作りを行ったのですが、十分な理解が得られなかったため、一度で使い切つてしまったところで終了してしまいました。今回は、できれば継続的・個人的な献金で基金を作ることをお願いできればと思つています。多くの賛同者を得られれば、一人の負担額は小さくなりますし、継続できるのではないのでしょうか。

最初に述べた「家族」という考え方をとつていただいて、教会の中心の役割を果たす人材を共に育てるといふ考え方に加わっていただきたいのです。忍耐を必要とすることだと思ひます。かけたお金に見合うだけの成果は、十分に得られないと思ひます。しかし、後に続く人たちのために何かをしなければ、私たちの役割を果たしたとは、誰も言えなくなるのではないのでしょうか。

謹賀新年

大司教	高見 三明(45)	川内 和則(32) 鯛 之 浦	本田 靖彦(14) 仲 知
長崎大司教区		久志利津男(32) 浦	●レデンブートル会
原塚 正人(67) 諫 早 市	高山 治(32) 宝 佐 亀	山口竜太郎(12) 出 津	井田 明(31) 愛 宕
佐藤 哲夫(61) 大司教館	鳥瀬 文武(31) 水 ノ 浦	谷脇誠一郎(10) 俵 町	三輪 周平(15) 〃
下川 英利(57) 長 崎 市	中村 倫明(29) 三 浦 町	熊谷 裕司(11) 小 神学院	●フランシスコ会
山内 豊(57) 平 戸 市	福島 光明(28) 山 田 町	片岡 仁志(55) 長崎修道院	戸村 悦夫(49) 本 原
山内 清海(56) お告げ本部	眞浦 健吾(28) 青 方 町	関口 七郎(41) 長崎修道院	
下村 徹(55) 大司教館	中濱 敬司(28) センタ 1 方	●神言修道会	
村中 司(55) 長 崎 市	紙崎 新一(27) 植 松 町	川上 進(47) 長崎修道院	
峰 徳美(55) 長 崎 市	平本 義和(27) 天 神 町	濱口 末明(38) 恵 の 丘	
三村 誠一(54) 大 崎 市	葛嶋 秀信(27) 黒 崎 市	西 経一(34) 長崎修道院	
平野 勇(54) 鹿 子 前	中濱 繁喜(27) 西 木 場	スタニスワフ・ポウオムスキ(32) 西 町	
野下 千年(54) センタ 1 前	鍋内 正志(26) 平 戸 口	大川 好洋(27) 長崎修道院	
堤 好治(54) 聖マルコ園	山村 憲一(26) 平 戸 口	ティアルティウス・ヘリ(19) 聖ルドヴィコ神学院	
宮川 俊行(54) 長 崎 市	岩崎 晋吾(25) 諫 早 市	フランシスクス・アシジ・モルク(9) 西 町	
小島 栄(53) 大司教館	下谷 英知(25) センタ 1 早	ペトロ・トラン・ドユック・デイエム(4) 〃	
萩原 勲(51) 香 焼 市	中田 輝次(25) 田 平 市	セルファシウス・サルファノ・ジャマン(新) 〃	
川上 忠秋(50) 深 堀 市	湯浅 俊治(23) 大 神学院	アルフォンسس・アフリ・ディエゲル(新) 〃	
片岡 久司(50) 大司教館	浅田 照明(23) 太 田 尾	聖ルドヴィコ神学院	
川口 清(49) 五 島 市	大水 文隆(23) 中央協議会	●マリア会	
浜崎 靖彦(49) 神 崎 市	辻原 達也(22) 奈 留 市	池田 紀行(47) 海星修道院	
長谷 功(49) 五 島 市	川原 拓也(22) 桐 留 市	坪光 正躬(46) 〃	
橋本 勲(48) 中 村 町	松田 聡史(21) 小 神学院	末吉 克久(35) 小ヶ倉共同体	
山川 忠(48) 大 村 市	山本 一郎(20) 愛媛・今治 市	高田 裕和(25) 小 倉 市	
下口 勲(45) 大 浦 市	嘉松 宏樹(20) 佐 々 市	●サレジオ修道会	
大山 繁(44) 黒 島 市	中島 誠志(20) 大 神学院	プリ・ヤン(36) 愛 野 市	
松下 光男(42) 上 神 崎 市	山田 良秋(19) 三 ツ 山 市	ソボン・タデウス(32) イエスのカリタス 牧野修道院	
小瀬良 明(42) 浦 頭 町	川口 昭人(19) 水 主 町	●オプス・デイ	
村川 昌彦(41) 八 幡 町	一ノ瀬輝幸(19) 熊本・水俣 市	尾崎 明夫(32) 長 崎 市	
山内 実(40) 真 手ノ 浦 町	岡 秋美(19) 時 津 市	木村 昌平(14) 〃	
諸岡 清美(40) 大 浦 天 主 堂	熊川 幸徳(18) イタリ ア 市	恵介(4) 〃	
岩村 知彦(36) 鮑 の 浦 市	大瀬良直人(18) 三 井 楽 市	●韓国殉教福者聖職修道会	
島山 邦夫(36) 馬 込 市	竹内 英次(17) 福岡・二日市 市	金 桐旭(7) 滑 石 市	
古巣 馨(36) 大司教館	尾高 修一(16) 紐 差 市	●オプス・デイ	
橋口 朝光(35) 相 浦 市	川原 昭如(16) 大司教館	尾崎 明夫(32) 長 崎 市	
山脇 守(35) 滑 石 市	葛島 輝義(15) 中 町 市	木村 昌平(14) 〃	
山田 聡(34) 島 原 市	工藤 秀晃(15) 木 ノ 市	裕 恵介(4) 〃	
中村 満(33) 福江、浜脇、井持浦	鶴崎 伸也(15) 神 ノ 市	() 内は叙階年数	
岩崎 康彦(33) 青砂ヶ浦	前田 達也(14) 浦 上 市		

●オプス・デイ	尾崎 明夫(32) 長 崎 市	木村 昌平(14) 〃	裕 恵介(4) 〃
●韓国殉教福者聖職修道会	金 桐旭(7) 滑 石 市		
●サレジオ修道会	プリ・ヤン(36) 愛 野 市	ソボン・タデウス(32) イエスのカリタス 牧野修道院	
●マリア会	池田 紀行(47) 海星修道院	坪光 正躬(46) 〃	末吉 克久(35) 小ヶ倉共同体
●オプス・デイ	尾崎 明夫(32) 長 崎 市	木村 昌平(14) 〃	裕 恵介(4) 〃
() 内は叙階年数			



全国からの参加者と関係者ら＝昨年10月20日 カトリック会館＝

昨年10月20日(金)～22日(日)東京・日本カトリック会館で、日本カトリック司教協議会の新福音化委員会(委員長・諏訪榮治郎高松司教)主催による「新福音化の集い」が開催された。

この集いは、第1回福音宣推進全国会議(ナイス1)から30年が経過したことを受け、ナイス以降の動きを知るとともに、新たな福音化に向けて信徒を励ますメッセージを準備するために開かれたもの。参加したのは、各教区の司教に人選を依頼して集まった信徒29人。参加者はワークシヨップなどを通して、分かち合いと祈りの3日間を過ごした。

「カトリック新聞」(2017年11月12日付)によると、会議での諸意見は、新福音化委員会によってまとめられ、司教団に報告される予定という。長崎教区から参加した2人、市瀬英明さん(植松教会)と深堀茂子さん(浦上教会)に感想を寄せていただいた。

★市瀬英明さん(植松教会)

この集いでは、全国から集まった皆さんと多くのことを分かち合いました。「教会と社会のつながり」「社会や個人の福音化」について、様々な視点から考察しました。ほぼ全員が初対面で、教区・小教区によって置かれた状況も異なります。しかし、分かち合いを重ねるにつれて、目指す方向性や思いを共有する心から感謝いたします。

★深堀茂子さん(浦上教会)

専業主婦の私にとって、東京までの一人旅は稀な事です。不安を感じながら、参加を決心したのは、『新福音化の集い』日常の中で福音を生きていくという副題を見たからです。実はこの副題は、私が常日頃心掛けていたことで、子、孫に伝えたいことでした。全教区からの信徒の皆様と心を一つに、

ことができました。信仰の力と聖霊の働きを強く感じる集いでした。私自身、福音を生きていくことの喜びを再認識させていただきまし。主において常に喜びなさい。重ねて言います。喜びなさい。(フィリピ4:4)。このみことばの温かさが心に沁みる3日間でした。この集いに参加できたことを心から感謝いたします。

信の秘跡は、日々の生活を支え守り、永遠の命へ導く人生の最終目的である神を、血縁や文化の違いを超えて『お父さん』と呼べる。この恵みに感謝し、み言葉と祈りを通して信仰を育んでくださ

祈り、話し合い、信仰を深められたのは本当に素晴らしい体験でした。少人数の集まりも一人ひとりが貰ったお恵みを自分の居場所を持ち帰り、周りを熱くしていくことで大きな力になると実感しました。私もこの場所、家族、友人の福音化を願い、努力することで教会の進む道を支えることができる

強くたくましい信仰者に

上五島地区の合同堅信式

上五島地区合同堅信式が11月12日(日)午後2時から、青方教会で高見三司教によって行われた。11小教区合わせて中学生35人、成人1人の合計36人が堅信の秘跡を受けた(写真)。



「日々の生活を振り返って、神様を信じていることが、難しいと感じましたが、堅信を受けた今、聖霊の七つの賜物によって、強くなるよう訴えた。

参加したのは韓国から22人と日本から15人の司教、駐日教皇大使、それぞれの司教協議会スタッフら計50人余。2日目には霧島市のホテルで2人



「日々の生活を振り返って、神様を信じていることが、難しいと感じましたが、堅信を受けた今、聖霊の七つの賜物によって、強くなるよう訴えた。

参加したのは韓国から22人と日本から15人の司教、駐日教皇大使、それぞれの司教協議会スタッフら計50人余。2日目には霧島市のホテルで2人

カタリナ 溝口佐多枝修道士女(お告げのマリア修道会)

11月14日、平戸市光の園老人ホームで逝去。84歳。1933年平戸市生まれ。55年南平愛善会(後の田平修道院)に入会。59年初誓願、75年終生誓願宣立。入会后、20年間

「日々の生活を振り返って、神様を信じていることが、難しいと感じましたが、堅信を受けた今、聖霊の七つの賜物によって、強くなるよう訴えた。

参加したのは韓国から22人と日本から15人の司教、駐日教皇大使、それぞれの司教協議会スタッフら計50人余。2日目には霧島市のホテルで2人



「日々の生活を振り返って、神様を信じていることが、難しいと感じましたが、堅信を受けた今、聖霊の七つの賜物によって、強くなるよう訴えた。

参加したのは韓国から22人と日本から15人の司教、駐日教皇大使、それぞれの司教協議会スタッフら計50人余。2日目には霧島市のホテルで2人

宣教への新しい熱意を

講演会とミサ―平戸ザビエル祭



り、多くの人が参加した。中島師は東京で大神学生の養成に関わり、あらためて長崎教区の司祭養成環境の素晴らしさ、あらゆる年代の司祭召命の受け皿があり、恵まれていると感じたことを紹介。これからは司祭養成に関心を向けてほしいと熱心に語った。記念ミサでは、高見三司教が説教の中で「長崎教区民に新しい熱意を期待したい。日々みことばに養われてほしい。洗礼を受けた人は宣教師になっ

諸宗教が集い 平和の祈り

世界連邦日本宗教委員会主催の平戸大会

第39回世界連邦平和促進全国宗教者・信仰者長崎・平戸大会が11月29日(水)、平戸市で開催された(写真)。

長崎で開催されるのは第6回、第25回に次いで3回目。今年



午前には平戸ザビエル記念教会で高見三司教司式によるみことばの祭儀。午後には平戸文化センターで、同委員会の50年の歩みを振り返り、第二バチカン公会議とその後のカトリック教会の諸宗教の歩みを、シスターマリア・デ・ジョルジ(真命山諸宗教対話・霊性交流センター副所長)の講演で学んだ。

平戸は、かつて東西交流の拠点であるとも

に、宗教間の軋轢により多くの殉教者を輩出した地。そのような場所での諸宗教による平和の集いが行われた意義を参加者一同は心に刻んだ。

マリス・ステラに祈る

けがれなき聖母の騎士 聖フランシスコ修道女会 終生誓願式

聖マキシミリアノ・マリア・コルベ司教が創立した「けがれなき聖母の騎士会」は、昨年100周年をお祝いした。その記念すべき年の11月21日(火)に高見三司教司式のもと、大分教区の浜口末男司教をはじめ14人の司祭団で終生誓願式

が諫早市の本部修道院聖堂で行われた(写真)。

北は北海道から東京、香川、佐賀、そして長崎と全国各地から祈りの友人が駆け付け、シスター尾島の終生誓願を祝った。

シスターマリス・ステラ尾島(福岡教区・箱崎教会出身)は修道会入会前、高松教区の桜町教会に属し、その時主任司祭だった浜口司教に推薦状を書いていただいている。その浜口司教は祝賀会の時、シスター尾島の「両親との思い出を話し、大いに盛り上がった。シスター尾島が最後まで修道生活を全うできるよう、会員一同、海の星なる聖マリア(マリス・ステラ)に祈りをささげた。



「高齢者と教会」テーマに 鹿児島で日韓司教交流会

の講師による講演があった。午前には韓国のテオパノ・イ・ゲヨン修道士女(聖家小婢女会)が、「二極化・高齢化が加速していく韓国と、教会の役割」について話をした。午後からは日本の結城康博教授(淑徳大学)が「高齢者と社会―深刻な格差社会の中で」と題して講演をした。

最終日は会場を鹿児島市の鹿児島カトリックに移し、今回の交流会の振り返りをするともに、平和を願う「北東アジアの平和を願う」を共同で発表した。交流会の最後に全員でミサをささげ、主司式は韓国カトリック司教協議会の会長キム・ヒジュン大司教(クワンジュ教区)が務めた。

参加者らは正式プログラムに入る前に、鹿児島市内の聖フランシスコ・ザビエルの上陸記念碑と福昌寺跡、沈壽官窯を訪問するなどした。

殉教420周年に再演

聖母の騎士学園劇『風花の丘』公演



高校生22人が舞台づくりに携わった

昨年11月15日(水)長崎市のチトセビアホールで、日本二十六聖人殉教劇『風花の丘』の公演を行いました。2017年が殉教からちょうど420周年に当たっており、20年前に初演されたものを再演したものです。

二十六聖人の中に、12歳のルドビゴ・茨木、13歳のアントニオ、そして14歳のトマス小崎の三少年聖人たちがいます。現在の中学生と同世代です。太閤秀吉の命により、生きたいという少年たちの希望など全く意に介されず「見せしめ」として殺されていった聖人たちの姿をしのぶことには大きな意味があると考えます。

いじめや自殺などの悲しいニュースが後を絶たない社会に命の重みを訴える機会となると考えるからです。

14歳のトマスが三原の牢獄で書いたお母さんへの手紙には心が揺さぶられます。陰湿な「いじめ事件」などの周囲にも、トマスと同じような心を持った少年少女たちがいるはずだと、本学園は、今後とも宗教劇の定期公演を続け、力強く信仰を生きた方々の姿を劇に再現しながら、カトリック校としての存在意義を深めていきたいと願っております。

聖母の騎士学園

理事長 崎濱宏美

信徒使徒職と宣教活動

NCK(日本カテキスタ会)公開講座

11月25、26日の2日間、カトリックセンターホールでNCK主催、教区信仰養成部共催で開催されました(写真)。

テーマは、「第二バチカン公会議公文書」を学ぶシリーズの第4回として「信徒使徒職と宣教活動」でした。

1日目の第一講話は嘉松宏樹神父様(佐々木教会)が、「世界広報の日教皇メッセージ」について解説し、カトリック中央協議会出版部長を務められた経験を活かして、広報の重要性が増している状況を話しました。

第二講話は高見三明大司教様が「信徒使徒職と宣教活動に関する教令」の内容を詳しく説明されました。この



教令により、信徒が持つ独自の使命と、実際に際しての信徒の責任および主体性が奨励されたことと。

2日目は、仙台教区の佐々木博神父様により、「信徒による福音宣教の実践」との演題の講話が行われました。まず、「信徒こそ福音宣教の主力である」として、「内輪向きの共同体から派遣される共同体への方向転換が大事」と強調されました。

受講者は、信徒使徒職の意義を再認識させられたのではないのでしょうか。

短 信

〔本島等々を偲ぶミサ〕
11月3日(金)中町教会で、2014年10月に亡くなった元長崎市長の本島等々さんを偲ぶミサが、教区平和推進委員会主催、仲知会共催により3年の節目にあたって行われた。

〔相浦教会で音楽祭〕
11月12日(日)、相浦教会主催の「ロザリオ音楽祭」が同教会聖堂で開催された。これは、信徒の親睦と活動の活性化を図るため、近隣の信者でない方々にも

声を掛けて、小共同体づくりの一環として行ったもの。詩吟、尺八演奏、聖歌合唱、オペラ独唱などがあり、集まった200人余の聴衆が約2時間にわたる音楽祭を楽しんだ。

〔平戸地区評議会が神学生らへ援助物資届ける〕
11月19日(日)10時頃、平戸地区評議会(松本久幸議長)の役員ら7人が長崎カトリック神学院を訪れ、神学生らのために同地区の各小教区が集めた援助物資(米・野菜・日用品など)と寄付金を届けた。当日は神学院で教養講座参観も行われており、参加している神学生の保護者らも一緒に物資の搬入を手伝い、平戸地区の信者の方々の温かい心に触れる一日となった。

物資は、純心聖母会とお告げのマリア修道会の志願院などにも贈られた。

権委員会協力による講演会と追悼ミサが中町教会で行われた。講師は、NPO法人全国自死遺族総合支援センター代表の杉本脩子氏。講演後は、橋本勲師(中町教会主任)の司式のもとミサがあり、参加者は、自死で亡くなった方々のための祈りをささげた。

〔子ども聖歌の集い〕
12月3日(日)中町教会で「第26回子ども聖歌の集い」が行われた。これは、待降節を迎えた子どもたちが、良いクリスマスを迎えるための準備と、小教区で歌による積極的な典礼奉仕・典礼参加ができるようにという目的で始められたもの。

長崎三地区から15小教区が参加し、皆元気に歌っていた。ゲストらによる楽器演奏や歌の披露もあり、今年は特に立ち見が出るほど多くの人々が集まった。特別賞は、黒崎、滑石、浦上の各小教区。

ふたつ園

◆第7回長崎キリスト教一致礼拝 1月21日(日)15時、長崎聖三一教会。
◆日本二十六聖人殉教記念ミサ 2月4日(日)14時、西坂公園(雨天時は中町教会)。
◆教皇フランシスコ平和メッセージと神父さんとともに歌うコンサート 2月12日(月)14時、カトリックセンター。講師・光延一郎師(イエズス会)。沖縄平和学習の報告あり。
◆臨床バスターナル教育研究センター一日研修会「スピリチュアルケアは誰が誰にするのか」 2月24日(土)9時30分～16時30分、聖フランシスコ病院。講師・加藤理人氏(同センター監事)。参加費2千円。同センター九州ブロック主催。申込先(2月14日メット)・聖フランシスコ病院バスターナルケア室 Sr.石岡 Fax 095・845・7600
〒852・8125 長崎小峰町9番20号。

来し方を振り返りながら、新しい一年の行く末に思いを馳せる今日この頃、皆さんのような思いで新しい年を迎えられたでしょうか。城山教会の現在の聖堂は紀元2000年大聖年の終わりに献堂されたもので、今年で18年目を迎えています。献堂の時も城山でお世話になっていました。大聖年また21世紀の幕開けの時、特に意識して平和のために祈りをささげたことを昨日のことに思い出します。人類が戦争に明け暮れた20世紀。その100年の間に第一次、第二次世界大戦だけで7500万人が犠牲になり、すべてを合わせれば戦争の犠牲者は1億5千万人にもなろうかと言われています。だからこそ、新しい世紀を迎えるにあたり、教会全体いや世界全体に平和への切なる思いがありました。

あれから17年。平和への祈りのうちに始まったにもかかわらず、世界は一致と平和に向かうどころか、分裂を深めているという印象さえ受けますが、このところ

みことばにふれて144

今田 昌樹 神父
(城山教会)

17・21)それは神さまと私たち人間そして人間同士を結ぶために十字架の上ですべてをささげられたイエスさまの聖心の切なる願いに違いありません。

神さまの似姿として造られた私たち。何かほんの少しのきっかけで仲違いしたり、

分裂したりする脆さを身に帯びながらも、心の一番深いところではみんなが互いに受け入れ合い、共に生きることが求めている。肩の力を抜いて、みんなが素直に向き合った時、本当の願いに気づきます。思えば25年前叙階記念の御絵に自分が記した御言葉も「父よ、すべての人を一つにしてください」でした。自分がこの御言葉を日々どのように受け止めて、具体的にどのように生きているのか。それを思うと心もとなない限りですが、それでも私たち一人ひとりの心の中、日常の歩みの中で、私たちの平和であり絆そのものであるイエスさまご自身がきょうも祈っておられるのを確かに感じるので。今年一年の私たちの歩みが、何があるうとも私たちから慈しみのまなざしを背けることのないイエスさまに支えられながら、互いに向き合い、支え合い、救い合い、大きな、また小さな対立、わだかまりを乗り越えていくものとなるように祈るばかりです。

飽の浦教会 井手義美

〔長崎中地区家庭委主催「ともにあゆむ学び」〕

11月19日(日)13時からカトリックセンターで長崎中地区家庭委員会主催の研修会が行われた。

講師を務めた教区家庭委員会の中濱敬司委員長は、「ともにあゆむ学び」と題して典礼暦とその利用法について語った。「典礼暦は単なる一年の年中行事ではなく、毎年繰り返しながら、らせん状に神の恵みの神秘を深めながら歩むのです」と話し、参加者は2018年の典礼暦をキリスト・家族・教会と心を結びながら歩むべきを学んだ。

〔教区評議会女性部が神学生養成援助献金贈る〕
12月10日(日)17時、教区評議会女性部の紙崎真由美代表ら計8人と担当司祭の葛嶋秀信師は、大司教館を訪れ、神学生養成援助のための献金77万3千4772円の小切手を高見三明大司教に手渡した。

長崎カトリック神学院
●平野末子様 (黒崎)
故ミカエル平野勝美様
右の方からご寄付・ご芳志を賜りました。お礼とご報告を申し上げます。

感謝
― 香典返し ―
長崎カトリック神学院

子どもと女性の
人権相談室

最初のご相談はお電話でお願いいたします。詳細は各小教区に配布されているポスターをご参照ください。

場所 カトリックセンター別館
連絡先 095・865・7829
時間 月～金 10時～16時
*第3月曜日と休日(祝日・教区本部事務局休業日など)を除く
相談室長 福田真理

主の平安
カトリック式葬祭・飾付一式

(有) 栄光式典社

代表取締役 ヨハネ 西村 勇二
長崎市辻町7-18 TEL(095)844-4011
24時間営業 FAX(095)843-9896

砕石・栗石・港湾用捨石一式生産販売

たつみ産業株式会社
西田商事株式会社

代表取締役 ミカエル 西田 剛
本社 〒857-1166 佐世保市木風町1468番地
TEL (0956) 31-8268

注文家具の店 家庭祭壇・聖具・祭壇・長椅子・朗読台

佳織木工所
kaori-mokkousho.com

《家庭祭壇ギャラリーOPEN パンフレットもご紹介します。》
〒857-0032 佐世保市宮田町7-7
☎0956 (23) 1867 代表 ラウラ・ビクーニア 濱口 佳織

ご先祖に心より感謝を・・・

材石治明

長崎本店 長崎市民霊園内 電話 (095) 846-3598
大村店 大村市民霊園内 電話 (0957) 50-3008

人と人の絆を大切に・ご葬儀のご相談は

メモリアル・典礼会館・中央斎場

長崎・諫早・大村・佐世保

メモリアル 事務局 ベトロ 田川慶司
☎0120-44-6666